

A stylized, topographical map of East Asia, including China, Korea, and Japan, rendered in shades of brown, green, and blue. The map serves as the background for the title text.

中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第二回 倭人の肖像

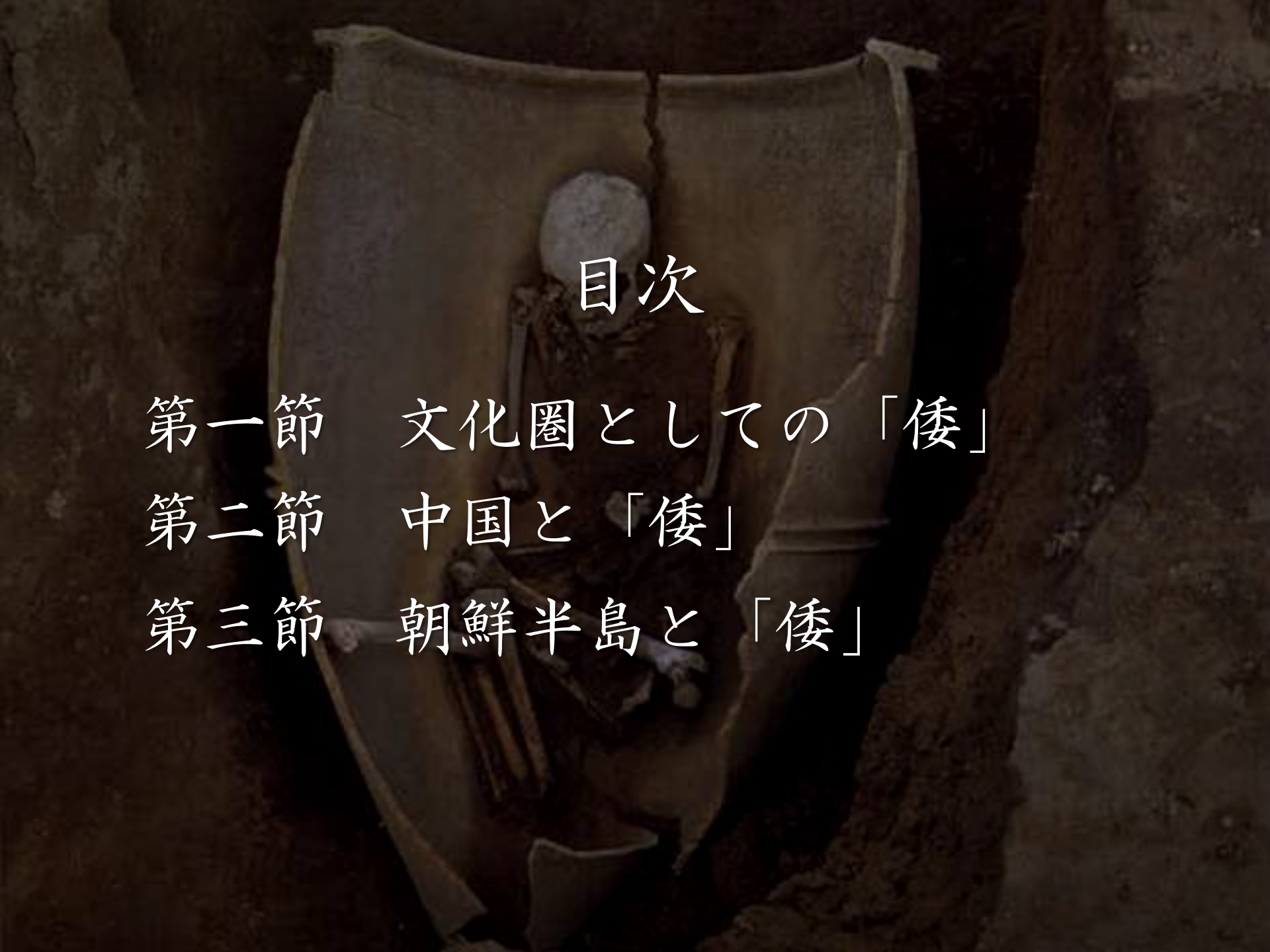
民族的アイデンティティーの形成

前回の講義では、分子人類学の研究成果をもとに、遺伝学的な視点から「日本人」の起源について考えた。

縄文文化や弥生文化を築いた人々は、遺伝的には多様な集団であったが、やがて日本語を共通言語とする独自の文化圏を形成し、中国大陆や朝鮮半島との交流を開始する。



三内丸山遺跡(青森県)

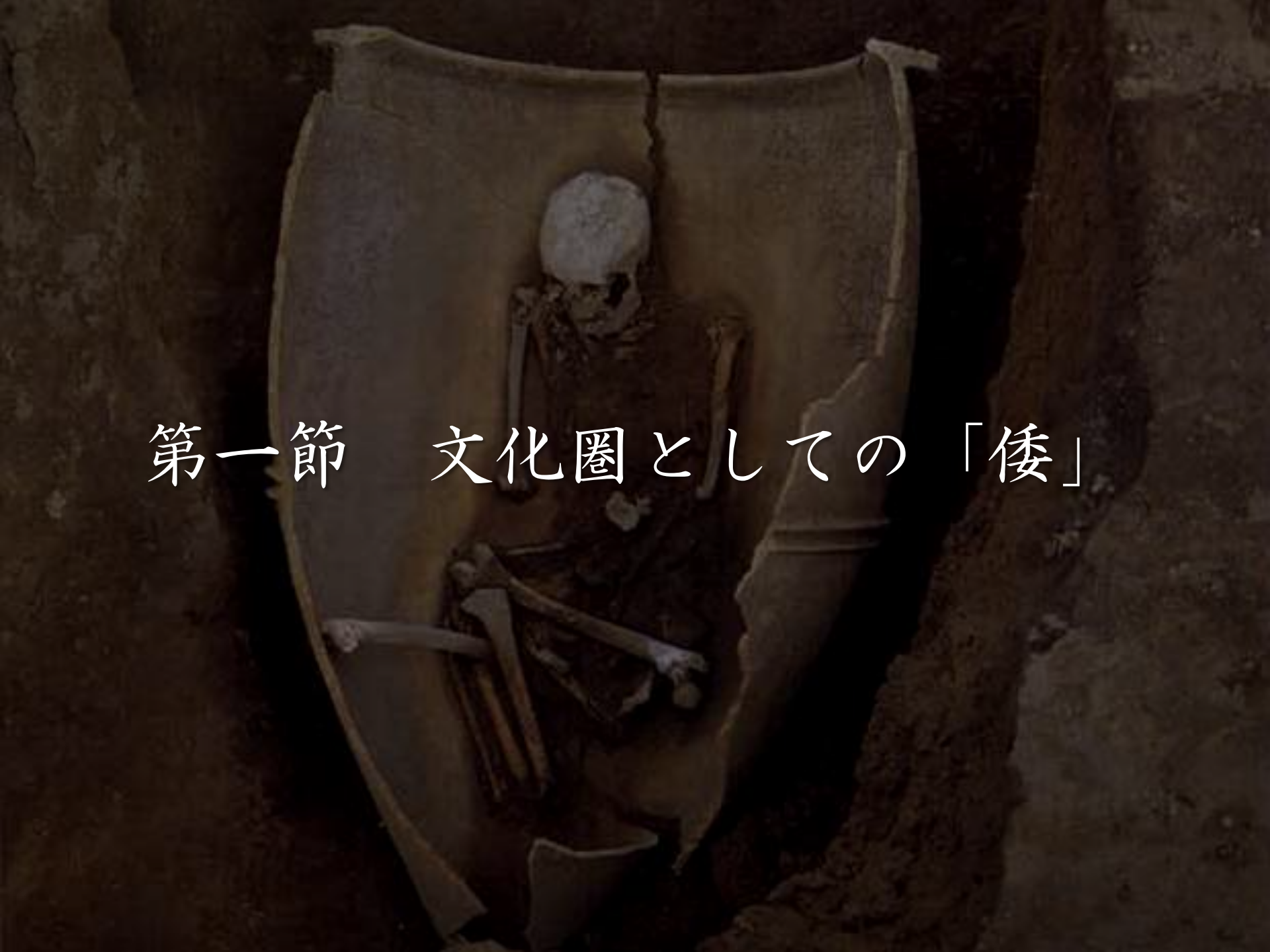


目次

第一節 文化圏としての「倭」

第二節 中国と「倭」

第三節 朝鮮半島と「倭」



第一節 文化圏としての「倭」

？

ネアンデルタール人はなぜ絶滅してしまったのでしょうか？

①現生人類に比べて脳が小さく、力も弱かったため

②現生人類より脳は大きかったが、言語能力が弱かったため



生命大躍進

氷河期へタイムトラベル
人間の“知性”の始まりへ

NHKスペシャル「生命大躍進 第3集 ついに知性が生まれた」

?

遺伝的に言語障害をもつ家族の調査から、ヒトの言語能力に関わることが示唆される遺伝子が発見されたが、その名前は？

① FOXP2 遺伝子

② PANDAP2 遺伝子



A photograph of a park path. The path is paved and leads into a wooded area. There are many trees, some with autumn-colored leaves. A bench is visible on the right side of the path. The overall scene is peaceful and natural.

生命大躍進

40億年 進化の旅
“知性”をはくくむ言葉

NHKスペシャル「生命大躍進 第3集 ついに知性が生まれた」

現生人類とネアンデルタール人

前回の講義でも紹介したように、スヴァンテ・ペーボらは、二〇〇九年にネアンデルタール人の細胞核DNAの解読に成功した。これにより、現生人類とネアンデルタール人のFOXP2遺伝子の比較が可能になった。

スヴァンテ・ペーボ(Svante Pääbo)

生命大躍進

40億年 進化の旅
言葉と遺伝子の深い関係

NHKスペシャル「生命大躍進 第3集 ついに知性が生まれた」

?

現生人類とネアンデルタール人のFOX P2遺伝子の配列に違いはあったのでしょうか？

① 違いはあった

② 違いはなかった



生命大躍進



絶滅人類 ネアンデルタール人
DNAを解読せよ!



NHKスペシャル「生命大躍進 第3集 ついに知性が生まれた」

日本語文化圏の成立

現生人類は、その優れた言語能力によって高度な文明を築いた。

アジア各地から日本列島に渡り、縄文、弥生の文化を築いた人々も、遺伝的には多様な集団であったが、日本語を共通言語とし、時間や空間を超えて知識を伝達・蓄積すること、独自の文化圏を形成していった。



三内丸山遺跡(青森県)



第二節 中国と「倭」

アジアの国際社会へのデビュー

日本語を共通語として独自の文化圏を形成した「倭」は、西暦一世紀ごろから中国に使節を送り、アジアの国際社会にデビューする。

弁辰傳

弁辰與辰韓雜居亦有城郭衣服居處與辰韓同言語法俗相似祠祭鬼神有異施竈皆在戸西其瀆盧國與倭接界十二國亦有王其人形皆大衣服絜清長髮亦作廣幅細布法俗特嚴峻

倭人傳

倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國漢時有朝見者今使譯所通三十國從郡至倭循海岸水行歷韓國尔南尔東到其北岸狗邪韓國七千餘里始度一海千餘里至對海國其大

弁辰 倭人

官曰卑狗副曰卑奴母離所居絶島方可四百餘里土地山險多深林道路如禽鹿徑有千餘戸無良田食海物自活乘船南北市糴又南渡一海千餘里名曰瀚海至一大國官亦曰卑狗副曰卑奴



或兩或三女入不淫不妒又俗不盜竊少爭訟犯法者沒其妻子重者滅其門族其死停喪十餘日家人哭泣不進酒食而等類就歌舞爲樂灼骨以卜用決吉凶行來度海令一人不櫛沐不食肉不近婦人名曰持衰若在不塗吉利則雇以財物如病疾遭害以爲持衰不謹便共殺之建武中元二年倭奴國奉貢朝賀使人自稱大夫倭國之極南界也光武賜以印綬安帝永初元年倭國王帥升等獻

中国の史書が伝える倭と後漢の交流

建武中元二年(西暦五七年)、倭の奴

国が貢物を持って朝貢した。使節は

自らを大夫と称した。倭国の南の果

て(にある国)である。光武帝は印綬を

下賜した。

餘里至朱儒國人長三『後漢書』卷八五東夷伝



福岡県志賀島

倭の奴国が後漢に使いを送ってから1700年後の天明4年(1784年)、福岡県の志賀島(しかのしま)で、巨石の下から「漢委奴国王」の金印が発見された。

GS

図 冬 告 新 書

金印偽造事件

「漢委奴國王」のまぼろし

三浦佑之

015

古代文学者・三浦佑之(みうら すけゆき)氏
が2006年に出版した書



三浦佑之(立正大教授 1946-)

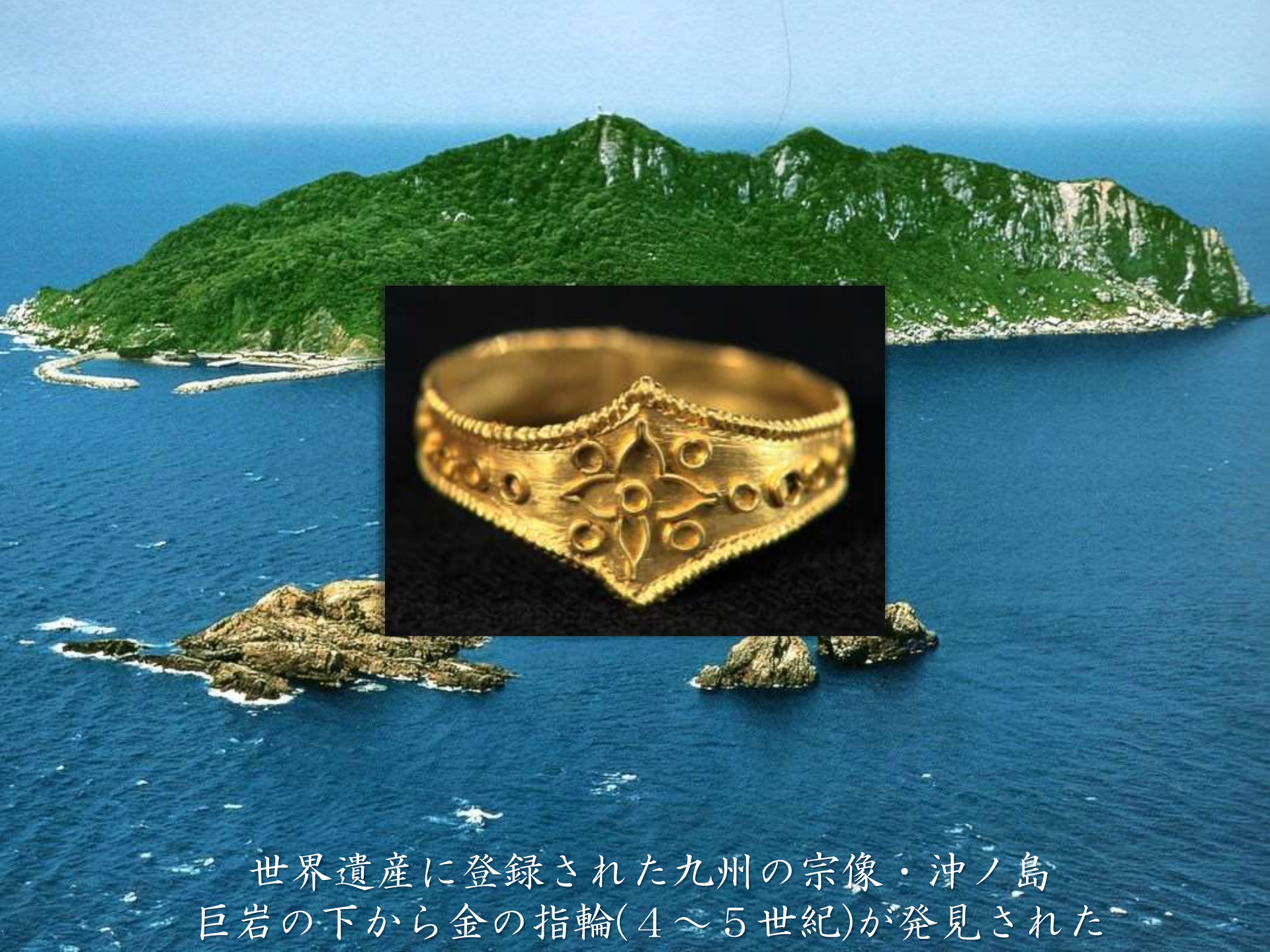
?

あなたは、この金印を本物だ
と思いますか

- ① 本物だと思う
- ② 贋物だと思う



天明4年(1784年)、福岡県志賀島で
発見された「漢委奴国王印」
(縦2.3cm×横2.3cm 重109g)



世界遺産に登録された九州の宗像・沖ノ島
巨岩の下から金の指輪(4～5世紀)が発見された



江蘇省邗江甘泉鎮

1981年、江蘇省邗江甘泉2号漢墓の近くから「広陵王璽」と刻まれた金印が発見された。広陵王とは、後漢の光武帝の子劉荊が、明帝の永平元年（58年）に授与された王位で、この金印はその際に下賜されたものと考えられている。



1981年、江蘇省甘泉2号漢墓で発見された「広陵王璽」。永平元年(58年)に光武帝の子劉荊に下賜されたもの
(縦2.3cm×横2.3cm 重123g)



1784年、福岡県志賀島で発見された「漢委奴国王印」。建武中元2年(57年)、倭の奴王に下賜されたもの
(縦2.3cm×横2.3cm 重109g)



?

卑弥呼が邪馬台国を治めていた
時代は、中国の何時代に当たる
でしょうか？

①三国時代(三世紀)

②唐代(七〜十世紀)

弁辰傳

弁辰與辰韓雜居亦有城郭衣服居處與辰韓同言語法俗相似祠祭鬼神有異施竈皆在戶西其瀆盧國與倭接界十二國亦有王其人形皆大衣服絜清長髮亦作廣幅細布法俗特嚴峻

倭人傳

倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國漢時有朝見者今使譯所通三十國從郡至倭循海岸水行歷韓國尔南尔東到其北岸狗邪韓國七千餘里始度一海千餘里至對海國其大

弁辰 倭人

官曰卑狗副曰卑奴母離所居絕島方可四百餘里土地山險多深林道路如禽鹿徑有千餘戶無良田食海物自活乘船南北市糴又南渡一海千餘里名曰瀚海至一大國官亦曰卑狗副曰卑奴母離方可三百里多竹木叢林有三千許家差有田地耕田猶不足食亦南北市糴又渡一海千餘里至末盧國有四千餘戶濱山海居草木茂盛行不見前人好捕魚鮓水無深淺皆沉沒取之東南陸行五百里到伊都國官曰爾支副曰泄謨觚柄渠觚有千餘戶世有王皆統屬女王國郡使往來



倭の女王卑弥呼

その国はもともと男子を王としていたが、七、八十年間、倭国が乱れ、戦乱が続いたため、ともに一人の女子を王に立てた。名を卑弥呼という。

『三国志』魏志倭人伝

倭人

下戸與大人相逢道路遠巡入草傳辭談事或蹲或跪兩手據地爲之恭敬對應聲曰噫比如然諾

其國本亦以男子爲王住七八十年倭國亂相攻伐歷年乃共立一女子爲王名曰卑彌呼事鬼道能惑衆年已長大無夫婿有男弟佐治國自爲王以來少有見者以婢千人自侍唯有男子一人給飲食傳辭出入居處宮室樓觀城柵嚴設常有人持兵守衛女王國東渡海千餘里復有國皆倭種又有侏儒國在其南人長二四尺去女王四千餘里又有裸國黑齒國復在其東南船行一年可至參問倭地絕在海中洲島之上或絕或連周旋可五千餘里景初二年六月倭女王遣大夫難升米

魏志倭人伝（宮内庁書陵部蔵）

倭の女王卑弥呼と魏への使節

景初二年（二三八年）六月、倭の女王は大夫・難升米らを（帶方）郡に遣り、天子への朝見を求めた。（帶方郡）太守の劉夏は吏を遣り、（難升米らを）京都（洛陽）に送った。

『三国志』魏志倭人伝

持兵守衛女王國東渡海千餘里復有國皆倭種
又有侏儒國在其南人長三四尺去女王四千餘
里又有裸國黑齒國復在其東南船行一年可至
參問倭地絕在海中洲島之上或絕或連周旋可
五千餘里景初二年六月倭女王遣大夫難升米
等詣郡求詣天子朝獻太守劉夏遣吏將送詣京
都其年十二月詔書報倭女王曰制詔親魏倭王
卑彌呼帶方太守劉夏遣使送汝大夫難升米次
使都市牛利奉汝所獻男生口四人女生口六人
班布二匹二丈以到汝所在踰遠乃遣使貢獻是
汝之忠孝我甚哀汝今以汝爲親魏倭王假金印
紫綬裝封付帶方太守假授汝其綬撫種人勉爲
孝順汝來使難升米牛利涉遠道路勤勞今以難
升米爲率善中郎將牛利爲率善校尉假銀印青



倭王武の上表

中国南北朝時代の史書に、倭の国王が送った書簡が記録されている。南朝宋の昇明二年（四七八年）に、倭王武が宋の順帝に送った上表である。

遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興奕世載忠作藩外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授爵號可安東將軍倭國王興死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融秦廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道造百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊隸處

劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇讐壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白及交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王

倭王武の上表

わが国は辺境の外藩国である。父祖の代より甲冑を纏って山川を涉り、休むことはなかった。東は毛人（アイヌ）又（五十五国）、西は衆夷（熊襲、隼人など）六十六国、さらに海を渡って北（朝鮮半島？）の九十五国を征服した。

遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王武上表曰臣等祖傳稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授『宋書』卷九十七倭国伝死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融秦廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道造百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊隸處劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇讐壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白及交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王

?

倭王武の上表によれば、五世紀末、倭は日本列島に広く勢力を拡大したというが、これを裏付ける考古学的な証拠が発見された。それはどこか？

①奈良県明日香村

②埼玉県行田市



金錯銘鉄剣

一九六八年、埼玉県行田市の稲荷山古墳から一一五字の銘文をもつ鉄剣が発見された。銘文によれば、

「辛亥年(四七一年)七月」に「獲加多支鹵(ワカタケル)大王」に仕えた「乎獲居(オワケ)」が作ったとあり、『日本書紀』に「幼武(ワカタケル)」と記された倭王武の勢力が、遥か東国まで及んでいたことが明らかになった。



金錯銘鉄剣 (埼玉県稲荷山古墳出土)

獲加多支國大主

金錯銘鉄劍（埼玉県稻荷山古墳出土）



?

これは稲荷山古墳の鉄剣と同じく五世紀末に作られた、七十五字の銘文をもつ鉄刀です。国宝に指定されたこの鉄刀は、どこで出土したものでしょう。

①奈良県明日香村

②熊本県玉名郡和水町



銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）

一八七三年（明治六年）、熊本県の江田船山古墳から刀の脊に七十五字の銘文を持つ鉄刀が発見された。

銘文には「獲□□鹵大王」という名が刻まれていたが、稻荷山古墳の鉄剣の発見により、これが「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」（雄略天皇）であることが明らかになった。



銀象嵌銘大刀（熊本県江田船山古墳出土）

獲加多支國太王

金錯銘鉄劍（埼玉県稻荷山古墳出土）

銀象嵌銘大刀（熊本県江田船山古墳出土）

獲加多支國太王



ヤマト王権Ⅱ日本語文化圏の拡大

「獲加多支鹵(ワカタケル)大王」の名を刻んだ刀剣が、埼玉県と熊本県の古墳から出土したことにより、倭王武が南朝宋に送った上表の内容——五世紀後半に「倭」Ⅱ日本語文化圏が急速に拡大したこと——が事実であることが明らかになった。



銀象嵌銘大刀(熊本県江田船山古墳出土)

倭の拡大と渡来人

熊本県江田船山古墳出土の銀象嵌銘大刀の銘文の末尾には、「書者張安也」と漢文(中国語)を書いた人物の名が刻まれている。

倭の勢力拡大と積極外交の裏には、この「張安」のような渡来人が、政権のブレインとして活躍していた。



銀象嵌銘大刀(熊本県江田船山古墳出土)



?

倭王武の時代（五く六世紀）の日
本人の姿を描いた絵はあるか？

①ある

②ない





職貢図(六世紀)

「職貢図」は、南朝梁の蕭繹（五〇

五く五五四年、のちの元帝）が朝貢

に來た使節を描いたもの。もと二十

五国が描かれていたが、現存するの

は滑国、波斯国、百济国、龜茲国、

倭国、狼牙修国、鄧至国、周古柯国、

呵跋檀国、胡密丹国、白題国、末国

の十二国。肖像画の左側には各国の

地理的な位置や風土、習俗、梁との

関係などが記載されている。中国歴

史博物館蔵。



職貢図は、南朝梁の蕭繹（五〇五く五五四年、のちの元帝）が朝貢に來た使節を描いたもの。もと二十五国が描かれていたが、現存するのは滑国、波斯国、百济国、龜茲国、倭国、狼牙修国、鄧至国、周古柯国、呵跋檀国、胡密丹国、白題国、末国の十二国。肖像画の左側には各国の地理的な位置や風土、習俗、梁との関係などが記載されている。中国歴史博物館蔵。



職貢図は、南朝梁の蕭繹（五〇五く五五四年、のちの元帝）が朝貢に來た使節を描いたもの。もと二十五国が描かれていたが、現存するのは滑国、波斯国、百济国、龜茲国、倭国、狼牙修国、鄧至国、周古柯国、呵跋檀国、胡密丹国、白題国、末国の十二国。肖像画の左側には各国の地理的な位置や風土、習俗、梁との関係などが記載されている。中国歴史博物館蔵。

職貢図は、南朝梁の蕭繹（五〇五く五五四年、のちの元帝）が朝貢に來た使節を描いたもの。もと二十五国が描かれていたが、現存するのは滑国、波斯国、百济国、龜茲国、倭国、狼牙修国、鄧至国、周古柯国、呵跋檀国、胡密丹国、白題国、末国の十二国。肖像画の左側には各国の地理的な位置や風土、習俗、梁との関係などが記載されている。中国歴史博物館蔵。



御索慶入居於瓦屑爲心國使持節齊南恒走突厥而居後天
征其主國次波斯樂樂買馬想池致跡勒于國以敗其國開
千里其主爲嚴多山川石林亦有五穀國人以麋及羊向獵殺有師士
物給乾野驢有角人言騎射者神木乃祀金王爲神木即校來計
制木爲用長八尺盈銀節之文是子反第其耳與故聖屋爲后木句
同方系正金床隨太歲博與妻正妻生有子無父字以木爲刻之
約物最長旁國通則使事國兵有勇男子父母爲敵無藏官所降小國侍
其主爲妻婦夫仲日初月也神木食其地一庫而止此助萬其
五千之數有賜三女嫁木爲妻父母死於戰二年空亡而若起皆以
水不爲神木也監于魯國王在底帝名夷果他始使背交連
經云此地名述紀年又述書何了了歌黃師子白語未
其臣時于歸至監于魯國述紀年行自同直物其使令筆頭前考
新波斯欲殺魯王榜朱蒙及其妻將其語言刺河人車葬而通張



波斯皇波蘭王之後也王于祇陀之子孫以王父爲氏因爲祇
韓迦安西域諸國志據他越西海中有安見國城在越南波羅
陀國以離他國世有波羅祇祇國四千里其地不遠波斯王
城門皆有樓觀城內屋宇數有間城內有寺一百所並有山
湧泉下流向山中有寶藏寶藏下時時下地湧出而王無意有後得
其花出龍駒馬馴有明珠王母珍馬明珠寶珠以賜掌寶王上其
地交易用之銀幣禮以金帛牧馬牛馬牛等畜以馬爲最其爲最
也婦人軀軀手有度闊東方五千里遠國近方里極其廣明國南方里司
入婆羅門國北方里所流增廣方里三百里其地最遠牛牛犬獸解才



百濟國使

百有千萬安夷馬得之賜與才駒結駟有邇來非浪亦有遠西
王國自昌已舉第修黃黃及應門下二條賜字元嘉中王臨此書見胡
中其是卿父曾受中國官爵并欲安其止不付平身爲高句驪川
進穿其王蘇達遣使奉表去其欲改高麗所治城曰固麻謂邑曰博古
以與舊路有二王賜曾分子弟不悅爲之旁小國有叛及卑早羅南羅
折非王述麻連上已文下捕賊穿四條一語必欲與同高麗行不依
振拜不中足以爲冠飾口後王授四拜王言其治及亦爲其



年並依康石隱王波野亭表入明



倭國使
倭國在東方東南太平洋中依出島居曰韓方嶺每水東南下京州
其北岸上陸三天際國守方餘里倭王前受倭左重拾事無暇地盤
我員珠青玉盤年思虎的千通
漢幅無縫曰其五



狼牙腔在南海中至廣州二方千里國界東西三日行南北二日行主
靠估暖草木常榮無雪道多金銀珠玉沉有男女老幼而被賊
古貝洗身國王以雲衣布霞衣送三日朝早獻寶帶金銀耳者
金銀女子皮布加綵綵羅帶高麗室門樓門閣有三層王行駕處
有侍妃持綵扇白蓋共有一百二十國人咸自初至國以餘年後始
獲猶正獲自賢者百姓路之主以鑿之而銀日折不數珠年之重
奔天竺天竺君以長女俄而俄才營王紀舉國迎之三年餘年死
如達文立天監十四年遣使回國多奉表貢獻



鄒至言西涼州中善別重也宋文齊世鄒至言至平川就道其所置中
史顯性豪放美士舊獻販馬入甚五千兩王象奇最遠屬僧常獻
貨品百斤馬而天其此中憎曰安向一衣服與名昌客同

Q 倭国の使者はどれでしょう？



南朝梁「職貢圖」 (北宋写本 中国歴史博物館蔵)

倭の拡大と渡来人

熊本県江田船山古墳出土の銀象嵌銘大刀の銘文の末尾には、「書者張安也」と漢文(中国語)を書いた人物の名が刻まれている。

倭の勢力拡大と積極外交の裏には、この「張安」のような渡来人が、政権のブレインとして活躍していた。

南北朝梁「職貢図」(北宋写本 中国歴史博物館蔵)

倭國使



南北朝梁「職貢図」(北宋写本 中国歴史博物館蔵)

倭國在南海之東南六海中依西島居曰帶日南海本東南之夷對其北岸之虛三十餘國其王所居大城在會稽南界其地出真珠青玉無牛馬虎豹羊雞

當在會稽東治之東其風俗不淫男子皆露紒以木髹招頭其衣橫幅但結束相連略無縫婦人被髮屈紒作衣如單被穿其中央貫頭衣之種禾稻紵麻燒蠶桑繅績出細紵練絲其地無牛馬虎豹羊鵲兵用矛楯木弓木弓短下長上竹箭或鐵鏃或骨鏃所有無與儋耳朱崖同倭地溫暖冬夏食生菜皆徒跣有屋室父母兄弟卧息異處以朱丹塗其身體如中國用粉也食飲用邊豆手食其死有棺無槨封土作冢始死停喪十餘日當時不食肉喪主哭泣他人就歌舞飲酒已葬舉家詣水中澡

倭人

魏志倭人傳

通 倭人傳呼頗自強大歷紀晉至梁歲來歸名馬昔通二年遣使康石憶丘波都奉表入朝

倭國使



倭國在東 東南大海中倭島居曰帶日領海本下南 其北岸虛三十餘國可方餘里倭王所居大倭在會稽 出貢珠青玉無牛馬虎豹羊鵲 面文身以木綿帛

漢書無傳曰

御製

百濟舊來夷馬韓之屬國言其地略近東樂浪亦有遼西
王將自晉已來常修使命貢其使曰王餘賧宋元嘉中王餘賧齊永明
中其王餘賧受中國官爵翟叔以王正王自事身爲高句驪王
進王王餘隆遣使奉表云黑水高麗所治城曰固麻謂之曰高麗於
中國舊稱有王王餘曾分子弟系高麗之旁小國有叛波卓多羅前羅
斯羅止達麻連王已文下披羅等王王餘曾與王餘賧同高麗行不展
拱拜不申足以帽爲冠縹白王王餘曾與王餘賧同高麗行不展

第三節 朝鮮半島と「倭」

倭國使

倭國在燕之東南大海中依山巖自帶溫風南海水南下交對其北岸之虛三十餘國可方餘里倭王所居人祇左會稽東氣暖地並出真珠青玉燕牛馬虎豹羊鷄

真方中藥五明中



明仁天皇の「ゆかり」発言

日本と韓国との人々の間には、古くから深い交流があったことは、日本書紀などに詳しく記されています。韓国から移住した人々や招へいされた人々によって様々な文化や技術が伝えられました。宮内庁楽部の楽師の中には、当時の移住者の子孫で、代々楽師を務め、いまも折々に雅楽を演奏している人があります。こうした文化や技術が日本の人々の熱意と韓国の人々の友好的態度によって日本にもたらされたことは幸いなことだったと思います。日本のその後の発展に大きく寄与したことと思っています。

サッカーワールドカップ日韓共同開催の前年に行われた天皇記念日の会見より（二〇〇一年十二月二三日）

明仁天皇の「ゆかり」発言

私自身としては、桓武天皇の生母が百済の武寧王の子孫であると『続日本紀』に記されていることに韓国とのゆかりを感じています。武寧王は日本との関係が深く、このとき日本に（儒教の）五経博士が代々日本に招へいされるようになりました。また、武寧王の子、聖明王は、日本に仏教を伝えたことで知られております。

サッカーワールドカップ日韓共同開催の前年に行われた天皇記念日の会見より（二〇〇一年十二月二三日）



北朝

中原に侵入した異民族が
建てた諸王朝

高句麗

新羅
百濟

南朝

江南に逃れた漢民族が
建てた諸王朝

5～6世紀ごろの東アジア

Q 百済国の使者はどれでしょう？



南朝梁「職貢圖」 (北宋写本 中国歴史博物館蔵)

『日本書紀』に記された百濟武寧王

(雄略天皇五年(四六一年) 夏四月、百濟の加須利君(蓋鹵王)は、我・弟の軍君に言った。

「日本へ行き、天皇に仕えよ」

軍君は答えて言った。

「主君の命に背くことはできません。願わくは君の婦人を賜って後、遣いに参りたく存じます」

『日本書紀』卷十四雄略天皇五年

好默無乃不可乎今陛下以嗔猪故而斬舍人
陛下譬無異於豺狼也天皇乃與皇后上車歸
呼萬歲曰樂哉人皆獵禽獸朕獵得善言而歸
夏四月百濟加須利君蓋鹵王飛聞池津媛之所
燔殺通智女而籌議曰昔貢女人爲采女而既
無禮失我國名自今以後不合貢女乃告其弟
軍君昭文曰汝宜往日本以事天皇軍君對曰
上君命不可奉違願賜君婦而後奉還加須利

君則以孕婦既嫁與軍君曰我之孕婦既當產
月若於路產冀載一船隨至何處速令送國遂
與辭訣奉遣於朝六月丙戌朔孕婦果如加須
利君言於筑紫各羅嶋產兒仍名此兒曰嶋君
於是軍君即以一船送嶋君於國是爲武寧王
百濟人呼此嶋曰主嶋也秋七月軍君入京既
而有吾子百濟新撰云辛丑年蓋鹵王遣王遣弟珍支君向大倭侍天皇以備先王

『日本書紀』に記された百濟武寧王

加須利君は、妊婦の婦人を軍君に
嫁がせて言った。

「わが妊婦はまもなく臨月を迎える。
途中で子供が生まれたら、船に乗せ、
たとえどこにしようとも、すぐに国
へ送り返すように」
こうして別れを告げると、
(日本
の) 朝廷へ遣いに向かった。

『日本書紀』卷十四雄略天皇五年

君則以孕婦既嫁與軍君曰我之孕婦既當產
月若於路產冀載一船隨至何處速令送國遂
與辭訣奉遣於朝六月丙戌朔孕婦果如加須
利君言於筑紫各羅嶋產兒仍名此兒曰嶋君
於是軍君即以一船送嶋君於國是爲武寧王
百濟人呼此嶋曰主嶋也秋七月軍君入京既
而有吾子百濟新撰云辛丑年蓋鹵王遣王遣弟珍支君向大倭侍天皇以備先王

『日本書紀』に記された百濟武寧王

六月丙戌の朔、妊婦は加須利君が
言ったとおり、筑紫の各羅島（加唐
島）で男児を生んだ。そこで、この
児に「島君」という名をつけた。軍
君は一隻の船で島君を国へ送り返し
た。これが武寧王である。百濟の
人々はこの島を「主島」と呼んだ。

『日本書紀』卷十四雄略天皇五年



百濟



加唐島

君則以孕婦既嫁與軍君曰我之孕婦既當產
月若於路產冀載一船隨至何處速令送國遂
與辭訣奉遣於朝六月丙戌朔孕婦果如加須
利君言於筑紫各羅嶋產兒仍名此兒曰嶋君
於是軍君即以一船送嶋君於國是爲武寧王
百濟人呼此嶋曰主嶋也秋七月軍君入京既
而有吾子百濟新撰云辛丑年蓋鹵王遣王遣弟珍支君向大倭侍天皇以備先王

文好
也

?

百濟の武寧王に関する『日本書紀』の記事は事実なのか？

①新たな発見によって事実であることが明らかになった

②まったくのウソ

武寧王陵

一九七一年、忠清南道公州市(熊津)の宋山里古墳群から新たな古墳が発見され、その中であつた墓誌から武寧王の陵墓であることが確認された。



武寧王陵の墓誌

陵墓から発見された墓誌には、

「寧東大將軍百濟斯麻王、年六十二
歳、癸卯年五月丙戌朔七日壬辰崩」
とあり、『日本書紀』が加唐島の
「島」にちなんであつたと伝える

「斯麻(しま)」の名で呼ばれていた
こと、没年が「癸卯年(五二三年)」
であることが明らかになった。

現生人類は、その優れた言語能力によって高度な文明を築いた。

アジア各地から日本列島に渡り、縄文、弥生の文化を築いた人々も、遺伝的には多様な集団であった。しかし、日本語を共通言語とし、時間や空間を超えて知識を伝達・蓄積すること、独自の文化圏を形成していった。

日本列島に誕生した日本語文化圏
Ⅱ倭は、紀元後まもなく中国との交渉を開始し、さらに朝鮮半島を通じて、儒教や仏教などの先進的な文明を取り入れていった。



百濟國使

参考文献

- ・スヴァンテ・ペーボ著・野中香方子訳『ネアンデルタール人は私たちと交配した』（文藝春秋二〇一五年）

映像資料

- ・NHK「生命大躍進 第三集 ついに知性が生まれた」

倭國使

倭國在熱帶之東南大海中依西島居曰帶方領海本不南也交對其北岸之虛三ノ輪國寸方餘里倭王所居大坂左會稽系氣地出真珠青玉燕牛馬虎豹羊鵝漢幅無縫旦吉

百濟國使